令和６年度　基本評価調書	所管部局	経済部	所管課	観光振興課

施策名	観光地づくりの推進	施策コード	0505
政策の柱	観光	政策体系コード	1(2)B
関連重点戦略計画等	北海道創生総合戦略、知事の基本政策、北海道Society5.0推進計画、ゼロカーボン北海道推進計画	事務事業数	13
特定分野別計画	北海道観光のくにづくり行動計画		
SDGs		総合判定	順調

予算額（千円）	R6	456,226千円	R5	546,799千円	R4	844,963千円

施策目標	広大で豊かな自然や食、文化といった本道が誇る観光資源を活用し更なる価値を高めるため、長期滞在や富裕層向けの旅行商品の開発をはじめ、多様化する観光ニーズに対応するための観光地づくりの推進や、本道の観光産業を支える人材の確保・育成の推進などにより、北海道観光のさらなる高付加価値化を図る。
現状と課題	（多様化する観光ニーズに対応した観光地づくり） ・旅行者ニーズや市場特性を的確に捉え、道内各地域の魅力ある観光地づくりとプロモーションを一体的かつ戦略的に展開するなど、観光の高付加価値化を進めるとともに、宿泊や交通など観光関連産業における人材の確保・育成、観光DXの推進、さらには観光客の移動の利便性向上など、受入体制の充実を図っていくことが重要。 ・SDGs、脱炭素といった持続可能な観光への思考の変化への対応が必要。 ・観光客の安全・安心の確保に資する環境の整備の取組が必要。

〈主な取組〉

今年度の取組	（多様化する観光ニーズに対応した観光地づくり） ・コロナ禍を経て多様化する観光ニーズに対応するため、ゼロカーボンの推進をはじめ、ワインツーリズムやケアツーリズムの推進、ナイトタイムエコノミーの促進など、地域の観光協会等が主体となった商品開発、観光DXの推進等の取組を重点的に支援する。また、地域の「稼ぐ力」を引き出すDMOへの支援を重点的に行う。 ・生産年齢人口の減少が進む中、コロナ禍による離職が重なり深刻な人手不足が生じている観光人材のうち、特に深刻な宿泊業を対象に、学生等へ、宿泊業への就業を図るため、職場見学等を実施する。また、受入体制整備を推進するため、引き続きセミナーや研修会を実施し、観光人材の育成を図る。
実績と成果	（多様化する観光ニーズに対応した観光地づくり） ・地域の魅力を生かした観光地づくり推進事業において、地域の観光協会や協議会等が行う商品作り等の支援を行う。（R5年度実績 DMO枠 8件、地域単独34件、広域連携17件、R6年度 DMO）枠7件、地域単独22件、広域連携15件） ・R5年度は観光業界への就業を図るために、UIJターンセミナーや事業者向け人材確保等のセミナー、先進事例の調査を実施したが、R6年度は特に人手不足が深刻な宿泊業の就業体験や職場見学会、事業者へのフォローアップを実施することとし、宿泊事業者や学校（高校、大学、専門学校等）と調整を行っている。 ・北海道観光の受入体制整備の推進のため、セミナーや研修会を実施し、インバウンドに対応できる人材の育成を行った。R6年度も実施に向け関係機者と調整を行っている。（R5年度実績　セミナーの開催3回、研修の実施119回）

参考HP①	北海道観光のくにづくり行動計画について	https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/252-kodo keikaku/koudoukeikaku.html
参考HP②	北海道観光振興機構　観光統計データ　レポート一覧	https://statistics.visit-hokkaido.jp/pdf/
参考HP③	北海道公式観光サイト	https://www.visit-hokkaido.jp/

令和6年度 基本評価調書	【1(2)B_0505】観光地づくりの推進

〈**指標分析**〉 ⇒成果指標は、原則、取組項目ごとに1つ以上、全体で5つ以下とする

指標名①	増加	円	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標(R14)	達成率	指標判定
観光消費額(道内客1人当たり)		目標値	14,000	14,200	14,400	15,000以上	90.1%	B
		実績値	9,439	9,910	12,972			

設定理由	旅行目的や旅行形態の多様化・個性化に対応した質の高い観光地づくりの状況を測る指標であり、課題である付加価値の高い、観光ニーズに対応した観光地づくりの取組の成果を測る指標として設定。

指標公表時期	毎年調査、6月頃暫定値・10月頃確定値公表	出典(根拠計画等)	北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」

分析(主な取組と成果)

「HOKKAIDO LOVE割」等の施策効果もあり観光需要の回復も見られ、道内客では交通費と宿泊費において増加がみられた。

指標名②	増加	円	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標(R14)	達成率	指標判定
観光消費額(道外客1人当たり)		目標値	76,000	76,600	77,200	88,000以上	105.2%	A
		実績値	67,733	78,811	81,182			

設定理由	旅行目的や旅行形態の多様化・個性化に対応した質の高い観光地づくりの状況を測る指標であり、課題である付加価値の高い、観光ニーズに対応した観光地づくりの取組の成果を測る指標として設定。

指標公表時期	毎年調査、6月頃暫定値・10月頃確定値公表	出典(根拠計画等)	北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」

分析(主な取組と成果)

「HOKKAIDO LOVE割」等の施策効果もあり観光需要の回復も見られ、道外客では交通費と宿泊費において増加がみられた。

指標名③	増加	円	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標(R14)	達成率	指標判定
観光消費額(外国人1人当たり)		目標値	120,972	138,778	156,584	210,000以上	－	－
		実績値	－	－	－			

設定理由	旅行目的や旅行形態の多様化・個性化に対応した質の高い観光地づくりの状況を測る指標であり、課題である付加価値の高い、観光ニーズに対応した観光地づくりの取組の成果を測る指標として設定。

指標公表時期	毎年調査、6月頃暫定値・10月頃確定値公表	出典(根拠計画等)	北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査」

分析(主な取組と成果)

R2年度からR4年度においては、コロナ禍により外国人観光客の消費額単価は未調査のため、達成率は算出できなかった。

指標名④			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					－	－
		実績値						

設定理由	

指標公表時期		出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

指標名⑤			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					－	－
		実績値						

設定理由	

指標公表時期		出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

令和6年度 基本評価調書	【1(2)B_0505】観光地づくりの推進

〈取組分析（連携状況、緊急性・優先性）〉

連携状況	(課題) ・観光の高付加価値と観光消費の拡大のために、観光ニーズの変化に対応し、個別の観光テーマを深掘りすることで地域のブランド力を高めるとともに観光の再構築が必要。 ・観光需要の急激な回復により事業者だけでは人材確保・定着に向けた取り組みを進めることが困難。また、観光関係業の実際の内容が学生たちに知られておらず、就職先の選択肢になりにくい。 (取組と成果) ・地域へアドバイザー派遣等を行い、伴走型の支援を強化している。 ・市町村や国の機関と情報交換を行いながら人材確保に取り組むとともに、小中学校・高校・専門学校・大学の教育機関と連携し、出前講座やインターンシップを実施し、将来の人材確保につなげる取り組みを行う。 ・これらの解決に向けて、連携して取組を進めることが重要である。
緊急性 優先性	(課題) ・コロナ禍より需要が回復してきてはいるものの、深刻な人手不足や賃金・物価の上昇等による仕入価格の高騰など厳しい状況に置かれており、観光客の消費単価の拡大を要望されている。 ・全産業的な労働力不足に加え、コロナ禍により人材が流出等で、より人材不足が深刻化している一方、観光需要の急激な回復により事業者だけでは人材確保・定着に向けた取り組みを進めることが困難。 (取組と成果) ・引き続き地域と連携し、北海道の強みを活かした観光地づくりを推進していく。 ・道内各地域で宿泊事業者に対する説明会や、事業者訪問を実施し、ニーズや状況を把握するとともに、各教育機関にも訪問による聞き取りを行い、キャリア教育につながる対策を円滑に行うよう取り組んでいる。

〈その他統計数値等〉

その他統計数値等①	過年度①	過年度②	最新年度
圏域別の宿泊延べ数(道央圏以外)	854万人(令和3年度)	1,256万人(令和4年度)	1,419万人(令和5年度)

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)
コロナ禍後の世界的な観光需要回復の波を確実に捉えるため、一層高度化、多様化するニーズを踏まえた取組を通じ、観光の高付加価値化を進め、観光消費の拡大に繋げるとともに、その効果を全道域へ波及させる必要がある。

(状況) コロナ5類移行などにより、観光客が回復していることから、道央圏以外の宿泊者数も延びてきており、引き続き取り組んでいく。	a

その他統計数値等②	過年度①	過年度②	最新年度

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)

(状況)	

その他統計数値等③	過年度①	過年度②	最新年度

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)

(状況)	

令和6年度 基本評価調書	【1(2)B_0505】観光地づくりの推進

〈総合判定〉

指標判定	A	連携状況	○	総合判定	順調
		緊急性・優先性	○		
		その他統計数値等	a		

※ 成果指標の指標判定が「D」の指標
（該当なし）

	対応方針番号	内容
翌年度に向けた対応方針	①	道内客の観光消費額は感染症の拡大により低調となっているが、観光消費額の向上には、地元（道民）が誇りと愛着を持って自然環境や多様で豊かな文化を大切に守りながら、地元を楽しめる観光地づくりが必要と考えられることから、魅力的な地域資源の価値を広く発信する。
	②	道外客の観光消費額は感染症の拡大により低調となっているが、観光消費額の向上にはモノ消費からコト消費への転換に対応することが必要と考えられることから、観光客のニーズ変化を捉え、変化に対応できる観光コンテンツの磨き上げや質の高い人材育成に取り組む。
	③	観光消費額や宿泊客延数は感染症の拡大により低調となっているが、ポストコロナにおいては、地域の特性を活かした新たな商品づくり等の取組や、満足度の高い受入体制の整備や情報発信イベントなどのプロモーションに取り組む。

〈二次政策評価〉

二次政策評価	

〈ＡＣＴＩＯＮ〉

二次政策評価への対応		
翌年度施策の方向性	対応方針番号	方向性
	①	今後も、観光機構と連携し、地域が取り組む地域の多様な観光コンテンツの造成、磨き上げから、受入れ体制の整備、販売及び情報発信までの一連の支援を実施していく。
	②	今後も、観光機構と連携し、地域が取り組む地域の多様な観光コンテンツの造成、磨き上げから、受入れ体制の整備、販売及び情報発信までの一連の支援を実施していく。
	③	今後も、観光機構と連携し、地域が取り組む地域の多様な観光コンテンツの造成、磨き上げから、受入れ体制の整備、販売及び情報発信までの一連の支援を実施していく。

令和６年度　事務事業評価調書	施策名	観光地づくりの推進	施策コード	0505

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局室名	前年度からの繰越事業費（千円）	事業費（千円）	うち一般財源	執行体制 本庁	執行体制 出先機関	執行体制 人工計	フルコスト（千円）	一次政策評価 対応方針番号	一次政策評価 方向性	二次政策評価意見	ACTION 結果への対応（令和6年度） 次年度方向性	ACTION 結果への対応（令和6年度） 二次評価意見への対応状況
0302		一般	地域の魅力を活かした観光地づくり推進事業費	地域の観光協会等が実施する新たな商品づくり等の取組を支援し、地域経済の活性化を図る。	観光振興課	0	180,980	180,980	0.5	0.0	0.5	184,985	①②③	改善（取組分析）	【事務事業のコスト】 関与団体に対する補助金等は、引き続き、道の施策推進上の必要性を検証し、意義が薄れた補助金、負担金及び交付金の縮減や、委託契約に係る競争性の導入の検討を行っていくこと。	拡充	多様化した観光ニーズ、観光需要の回復傾向を踏まえ、道との関係性及び活動にあたっての内容、予算等の精査に努めるとともに、新たな会員の獲得や収益事業の拡大など自主財源の確保に向けた各取組を積極的に後押ししていく。
0306		一般	広域観光周遊促進事業費	外国人観光客等の道内7空港を核とした周遊を促進するため、地域で魅力ある観光地づくりを推進するとともに二次交通の利便性向上により、地域偏在の解消を図る。	観光振興課	0	98,230	98,230	0.8	0.0	0.8	104,638			【事務事業のコスト】 関与団体に対する補助金等は、引き続き、道の施策推進上の必要性を検証し、意義が薄れた補助金、負担金及び交付金の縮減や、委託契約に係る競争性の導入の検討を行っていくこと。		多様化した観光ニーズ、観光需要の回復傾向を踏まえ、道との関係性及び活動にあたっての内容、予算等の精査に努めるとともに、新たな会員の獲得や収益事業の拡大など自主財源の確保に向けた各取組を積極的に後押ししていく。
0308		一般	広域連携DMOとしてのデジタルマーケティング事業費（デジタル田園都市国家構想交付金）	観光誘客促進を図るため、マーケティングデータの収集・分析等を実施する。	観光振興課	0	34,167	17,084	0.8	0.0	0.8	40,575			【事務事業のコスト】 関与団体に対する補助金等は、引き続き、道の施策推進上の必要性を検証し、意義が薄れた補助金、負担金及び交付金の縮減や、委託契約に係る競争性の導入の検討を行っていくこと。		多様化した観光ニーズ、観光需要の回復傾向を踏まえ、道との関係性及び活動にあたっての内容、予算等の精査に努めるとともに、新たな会員の獲得や収益事業の拡大など自主財源の確保に向けた各取組を積極的に後押ししていく。
0310		一般	北海道さっぽろ「食と観光」情報館運営費	道が高い競争力を持つ「食」と「観光」の分野において、その魅力をアピールする総合情報拠点として札幌市との連携により整備した「北海道さっぽろ『食と観光』情報館」を運営する。	観光振興課	0	37,672	25,388	0.4	0.0	0.4	40,876					
0311		一般	ユニバーサルツーリズム推進事業費（デジタル田園都市国家構想交付金）	道内観光に求められるニーズの多様化を受け、誰もが安全・安心に道内旅行を楽しむことをできる環境を整備する。	観光振興課	0	19,873	9,937	0.4	0.0	0.4	23,077			【事務事業のコスト】 関与団体に対する補助金等は、引き続き、道の施策推進上の必要性を検証し、意義が薄れた補助金、負担金及び交付金の縮減や、委託契約に係る競争性の導入の検討を行っていくこと。		多様化した観光ニーズ、観光需要の回復傾向を踏まえ、道との関係性及び活動にあたっての内容、予算等の精査に努めるとともに、新たな会員の獲得や収益事業の拡大など自主財源の確保に向けた各取組を積極的に後押ししていく。
0313		一般	住宅宿泊事業法関連事業費	民泊を活用した誘客拡大と民泊による近隣住民とのトラブルの解消を目的とする「住宅宿泊事業法」を適正に執行するための経費。	観光振興課	0	13,015	13,015	2.0	1.4	3.4	40,249					
0314		一般	観光統計調査事業費	本道における観光入込客数等を調査し、道の観光振興施策推進の基礎資料とするほか、市町村や観光事業者等の活用に供する。	観光振興課	0	5,696	5,696	0.5	0.0	0.5	9,701					
0317		事務	観光客の受入体制整備に関する事務	観光客に対応するため、受入体制の整備を図る。（Wi－Fi，キャッシュレス、医療、レンタカー、災害対応等）	観光振興課	0	0	0	0.4	0.0	0.4	3,204					
0318		事務	地域イベントに関する事務	地域イベントに係る後援名義依頼、役員就任、行事への出席、キャンペーン支援	観光振興課	0	0	0	0.4	0.0	0.4	3,204					
0319		事務	その他内部管理事務	予算決算、文書管理、議会対応、職員の人事・服務・給与・福利厚生、物品管理、広報広聴、陳情要望、政策評価、企画立案など、局内の内部管理に関する事務全般	観光振興課	0	0	0	4.0	0.0	4.0	32,040					
0320		事務	観光局総合調整業務	観光局の各事務事業が円滑に執行されるよう管理する。	観光振興課	0	0	0	4.0	0.0	4.0	32,040					
0346		一般	観光人材発掘事業費	人手不足が著しい宿泊業に対し、学生等へ職場見学等を通じ、宿泊業への就業を図る。	観光振興課	0	40,814	32,413	0.8	0.0	0.8	47,222					
0347		一般	観光人材育成事業費	北海道観光の受入体制整備を推進するため、セミナーや研修会を実施し、観光人材育成を図る。	観光振興課	0	25,779	12,890	0.5	0.0	0.5	29,784			【事務事業のコスト】 関与団体に対する補助金等は、引き続き、道の施策推進上の必要性を検証し、意義が薄れた補助金、負担金及び交付金の縮減や、委託契約に係る競争性の導入の検討を行っていくこと。		多様化した観光ニーズ、観光需要の回復傾向を踏まえ、道との関係性及び活動にあたっての内容、予算等の精査に努めるとともに、新たな会員の獲得や収益事業の拡大など自主財源の確保に向けた各取組を積極的に後押ししていく。
計						0	456,226	395,633	15.5	1.4	16.9						